中村元記念館
Nakamura Hajime Memorial Hall
नाकामुरा हाजीमे स्मारक सभागृह

東方学院松江校
The Eastern Academy at Matsue

受講の手引き

2016年度

東方学院

理念

〈人間〉の回復をめざし
財団法人東方研究会を母胎として
ここに『東方学院』を開設しました。
『東方学院』は本学院の理想に賛同する学者個人と
そのもとで学ぼうとする学徒とによって構成される
共同体としてのグループの連合です。
〈個人指導の場の共同体〉とでもいうべきものをめざしています。

The Toho Gakuin (The Eastern Academy) was established
with the hope of contributing to the restoration of human integrity.
This Academy is a cooperative body of various academic communities
of scholars and students wishing to learn,
in which scholars provide personal guidance to the students.
Above all, our aim is to have this Academy be the rallying point
for students and scholars.

東方学院松江校の運営は特定非営利活動法人中村元記念館東洋思想文化研究所が行います。

目　次

「慈しみ」 3
ごあいさつ 4
東方学院とは 4
東方学院松江校　2016年度　講義一覧 6
2016年度　定期講義　講義内容 8
2016年度　集中講義　講義内容 13
東方学院松江校　2016年度お申し込みと
受講料のご案内 22
受講申込書 23
2016年度　年間スケジュール 25
東方学院歌「慈しみ」 26
中村元記念館ボランティアサポーター募集 27
中村元記念館東洋思想文化研究所研究員募集 27
中村元記念館友の会入会のご案内 28
アクセス 29

表紙絵：石川 響

慈しみ

一切の生きとし生けるものは
幸福であれ　安穏であれ　安楽であれ
一切の生きとし生けるものは　幸であれ
何びとも他人を欺いてはならない
たといどこにあっても
他人を軽んじてはならない
互いに他人に苦痛を与える
ことを望んではならない
この慈しみの心づかいを
しっかりと　たもて

中村元訳　ブッダのことば

中村　元
(1912～1999)

インド哲学・仏教学の世界的権威であり、比較思想学の開拓者。1500点を超える膨大な著作・論文を発表し、我が国における思想研究の分野を大きく発展させた。従来のセクショナリズムにとらわれない壮大な世界思想史を構築し、その業績は海外でも高く評価されている。

大正元年島根県松江市に生まれ、東京帝国大学でインド哲学を学ぶ。同大学名誉教授。昭和45年財団法人東方研究会（現公益財団法人中村元東方研究所）を設立。昭和48年東方学院を設立し、学院長に就任。昭和49年紫綬褒章、昭和52年文化勲章受章。平成元年松江市名誉市民。

主な著書に『広説佛教語大辞典』（東京書籍）、『初期ヴェーダーンタ哲学史』（岩波書店）、『東洋人の思惟方法』シリーズ、『インド史』（春秋社）、他多数。

ごあいさつ

東方学院長
前田 專學
（公益財団法人中村元東方研究所理事長・中村元記念館館長）

平成24年10月10日、私の長年の夢でありました恩師中村元先生の記念館が、大根島の中心に開設され、平成25年４月には、この記念館に東方学院松江校が、東京の東方学院本校と緊密な連携のもとに、開校されましたことは私の最大の喜びです。なぜなら大根とは、ものの根本中の根本、すなわち中村元の元を意味し、将来中海・宍道湖圏域の連携・発展の根本となり、元となり、中村元記念館と松江校がその象徴となることを願っているからです。

中村先生ご自身の書斎、毎日お使いになった34,000冊のご蔵書、その他数々のご遺品とともに、先生はこよなく愛された生まれ故郷の松江に帰ってこられました。先生は、一人でも多くの方々がこの記念館に集い、先生が開拓された学問の道を歩み、東洋の思想と文化の精華を吸収され、さらにそれを広く発信し、世界の平和と繁栄に貢献されることを願っておられるにちがいありません。

東方学院には報酬の有無を度外視して教えたいという意欲的な先生方にお集まり頂きました。当学院に入学するのに、年齢も性別も学歴も職業も問いません。唯一必須の入学条件は勉強に対する強い意欲です。それ故に東方学院では受講生とは言わず、研究会員と申します。一人でも多くの研究会員のお出でをお待ちしております。

東方学院とは

老若男女を問わず、誰もが東洋思想について学べる場所——それが東方学院です。

東方学院は、インド哲学・仏教学の世界的権威である故中村元博士によって、1973年に財団法人東方研究会（現 公益財団法人中村元東方研究所）を母胎として設立されました。

「真に教えたい一人と、真に学びたい一人が集まれば学院は成り立つ」という中村博士の理念に基づき、学問のセクショナリズムにとらわれない現代の寺子屋として、東京本校・関西教室・中部教室で、多くの人々が東洋思想について教え、学び、日々研鑽を深めています。

そして平成25年４月、中村博士の出身地、島根県松江市の中村元記念館に東方学院松江校が開校されました。

「心の時代」といわれる現代社会、多くの人々が「どのように生きるべきか」という問いを抱えています。中村博士は生涯、インド哲学や仏教をはじめとした東洋の思想を通じて、私たちの「生きる道」を説き続けました。

学問とは真理の探究であり、その扉はいつでも、誰にでも開かれています。

あなたも東方学院松江校で、奥深い魅力にあふれた東洋の智慧を学んでみませんか？

◆ 東方学院の特徴

・真に学を究め、道を求めたい人々の学院です。学歴・年齢・職業・国籍・性別などを問いません。
・専門家のあいだの縄ばり意識の無い学院です。だれでも自由に学問を延ばすことができます。
・講師と研究会員との人間的連絡が緊密です。講師は懇切に指導をいたします。同学の人々とながく協同することが可能です。
・各講師は奉仕的に指導をいたしますから、若干の分野においては、日本におけるどの大学よりもはるかに詳しい講義がなされています。
・従来の大学ではなされていないテーマで斬新な講義や実習指導がなされています。
・学問には熱意が最も大切です。したがって熱意のある方々はいつでも入学できます。
・東方学院の講義を受講される方を本学院では「研究会員」と称します。

◆ 東方学院設立の経緯と意義

東方学院は、創立者中村元の東京大学退官とともに、昭和45年11月に文部省より財団設立の認可を受けた財団法人東方研究会（現公益財団法人中村元東方研究所）を母胎として、昭和48年に設立されました。

その大きな動機は、当時、大学に吹き荒れた学園紛争にともない、学術的には減退傾向にあり、また精神的な砂漠化のさなかにあって、学術的精神的な拠点となりうる、小さくともしっかりした学院をつくることにありました。そして学問の自由を制約することになる縄張り意識の強いセクショナリズムを廃して、真理探究を目的とする学問本来の姿を回復するためでありました。

大学の外につくることでセクショナリズムを脱し、またカルチャー・センターとも異なる一種の私塾、つまり現代の「寺子屋」として出発しました。真に教えたい一人と真に学びたい一人が集まれば学院は成り立つ ― これが創立者・中村元の信念であり、まさに東方学院の原点といえます。

幸いにも、このような考えに同調し、協力を申し出る人々が集まり、学院は開講されました。狭いビルの一角を間借りし手弁当を持ち寄って、文字どおりの「寺子屋」が始まったのです。

しかし、財団の基盤を強固にし、学院を発展させていくためには、しっかりとした学問研究の場所を確保する必要がありました。そこで、創立者の私財をもとに、財団設立に協力して下さった篤志家の方々が、昭和57年「財団法人東方研究会強化募金運動」を開始されました。一高時代の同窓生（「昭８文乙クラス会」のメンバー）である中村敏夫弁護士をはじめとして、同じく星埜保雄、宇佐見鉄雄、倉知善一、新井正明氏らが発起人となり、その資金集めから場所の確保にいたるまで実に並々ならぬご尽力を下さいました。そのおかげで、諸方面から多数の賛同者･協力者を得ることができ、現在のこの場所を入手するにいたりました。東方学院は、これらの人々によって築かれた土台の上に、今日成り立っております。

以来、当学院は、優れた数多くの講師を迎え、多くの方々の善意と学問への熱意によって支えられ発展して参りました。

今後も創立者の遺志を継承し、初心を忘れることなく、ますます発展していきますことを心より念願しております。

財団法人東方研究会
名誉理事長 **中村洛子**
（1919～2010）

※財団法人東方研究会は平成24年7月2日付けで、公益財団法人中村元東方研究所へと名称を変更しました。

東方学院松江校 2016年度講義一覧

定期講義

講義題目	講師名	回数	日程・時間		開校日	受講料
仏教は何を説いているのでしょうか（前期）	三桐慈海	14	毎週木曜日	13:30～15:00	4/21	16,800円
仏典解説（後期）	三桐慈海	10	毎週木曜日	13:30～15:00	10/6	12,000円
仏教の歩みを尋ねて ―中国中世・近世の時代―	藤島建樹	12	第１・第３・第５土曜日	13:30～15:00	4/16	14,400円
アジアの風土と民族音楽 ～概説と比較文化論の試み～	瀬古康雄	6	第２土曜日	13:30～15:00	5/14	7,200円
観想行入門	清水谷善圭	6	第４木曜日	10:20～11:50	4/28	7,200円
無量寿経を読む	齊藤舜健	6	第３金曜日	13:30～15:00	5/20	7,200円
宮沢賢治《文語詩稿》を 島根から読む	島田隆輔	6	第２土曜日	13:30～15:00	5/14	7,200円
法華経の世界	岡田行弘	6	第２火曜日	13:30～15:00	5/10	7,200円
ものがたり環境宗教学	岡田真美子	6	第３水曜日（隔月）	13:30～15:00	5/18	7,200円
チベット仏教を目指した 東西の先駆者たち ―能海寛、河口慧海、チョーマ・ド・ケレスの物語―	岡﨑秀紀	6	第３土曜日	15:30～17:00	10/15	7,200円
出雲学概論	藤岡大拙	6	第２水曜日	10:20～11:50	5/11	7,200円

集中講義

講義題目	講師名	回数※	日程・時間		受講料
仏典『真理のことば』（『法句経』）を読む（その２）	前田專學	4	4/11（月） 4/12（火）	13:30～16:50 10:30～15:00	4,800円
インド哲学と因果応報思想	丸井　浩	4	平成29年 3/7（火） 3/8（水）	13:30～16:50 10:30～15:00	4,800円
仏教聖典へのいざない	釈　悟震	4	10/23（日） 10/24（月）	13:30～16:50 10:30～15:00	4,800円
仏教と日本文化	蓑輪顕量	4	8/6（土） 8/7（日）	13:30～16:50 10:30～15:00	4,800円
画像で見る世界の宗教と倫理と哲学	吉田宏哲	4	6/25（土） 6/26（日）	13:30～16:50 10:30～15:00	4,800円
天台四教儀（２）	三友健容	4	7/5（火） 7/6（水）	13:30～16:50 10:30～15:00	4,800円
神と仏の変奏 ―日本的仏教の一側面―	加藤みち子	4	5/7（土） 5/8（日）	13:30～16:50 10:30～15:00	4,800円
アメリカ人による仏教の捉え方と実践―日本仏教への示唆―	田中ケネス	4	9/24（土） 9/25（日）	13:30～16:50 10:30～15:00	4,800円
大乗仏教のエッセンスと智慧の経典・般若経	渡辺章悟	4	平成29年 3/25（土） 3/26（日）	13:30～16:50 10:30～15:00	4,800円
ジャイナ教のマンダラについて	矢島道彦	4	11/5（土） 11/6（日）	13:30～16:50 10:30～15:00	4,800円
仏教とイスラム教 その遠くて近い宗教関係	保坂俊司	4	9/1（木） 9/2（金）	13:30～16:50 10:30～15:00	4,800円

※集中講義は１日に２コマの講義を行います。

講義日は変更になる場合があります。
休講、日程変更などの情報は、中村元記念館ホームページでご確認ください。
http://www.nakamura-hajime-memorialhall.or.jp/

2016年度　定期講義　講義内容

みつぎり じ かい
三桐慈海
大谷大学名誉教授
真宗大谷派妙覚寺住職

1　仏教は何を説いているのでしょうか。（前期）　〈14回〉

仏教は真実の帰依處として、如何に生きるかを教えています。その基礎を学習します。

2　仏典解説（後期）　〈10回〉

般若経や法華経など、大乗経典を解説し、経典を選んで実際の経文を講読します。

［日時］毎週木曜日（詳細は年間スケジュール（p25）をご覧ください）　13:30～15:00
［受講料］前期16,800円・後期12,000円

3　仏教の歩みを尋ねて―中国中世・近世の時代―　〈12回〉

ふじしまたて き
藤島建樹
大谷大学名誉教授
真宗大谷派圓浄寺住職

インドで釈尊によって開かれた仏教は、アジア全域に広がりましたが、その中で、中央・東アジアへ、ことに中国・朝鮮半島、そして日本へ着いた仏教の歩みを地域・時代・民族、さらに「王法と仏法の対峙」などの歴史的推移に注目しつつ辿っていきます。

仏教が中国に入り、完全に「中国仏教」として定着したのは、隋から中唐期でした。「隋」の文帝から唐の太宗の時代でした。

様々な問題を持ちながらも最盛期を迎えます。それを象徴するのが、三蔵法師「玄奘」のインドからの帰国でした。厳しい陸路を往復走破し、教典原本を持ち帰った彼の行動は長安の都を歓喜の渦に巻き込んだようです。

しかし、玄宗の時に生じた「安史の乱」は「大唐帝国」の繁栄を阻害しました。その中には仏教にとっても災禍といってよい武宗による「会昌の廃仏」、後周の世宗の廃仏事件などを経験しますが、新興の密教や禅宗系の繁栄もあって、その勢力を保持し続けました。

そして時代は、「中国的近世」といわれる「宋」の建国となります。一方、北方では異民族契丹族の「遼」が建国、南下の動きを見せます。続いて女眞族の「金」が黄河を超えて「宋」を南遷させました。さらには蒙古族の「元」の全土占領となり、ほぼ400年に及ぶ厳しい「征服王朝時代」を経験します。

しかし、仏教は大きな圧力を受けることなく、異民族王朝も仏教優遇政策を取りました。また元朝は、自らは「ラマ教」を尊崇し、その長を「帝師」と尊称し、厚遇したこともありました。このように中国を中心とする仏教の歴史は波乱を交えながら推移しました。

今年度は、日本僧の渡行日誌として著名な円仁の『日唐求法巡礼行記』の記事などから始めようかと思います。この記事には円仁が遭遇した「会昌の廃仏」のことや、聖地五臺山参拝のことなど、興味深いことが多く記されています。

当時の中国仏教界の様相や、日本仏教の聖地への憧憬に思いを馳せることもできるかと思います。

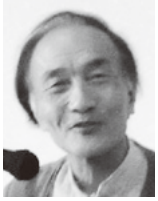
昨年度は、注目すべき動きが多々あり、結局「唐」の前半で終わってしまいました。

この一年でどこまで進めるか分かりませんが、あくまで「歴史の中での仏教」を意識して話したいと思います。

［日時］第１、第３、第５土曜日（4/16、5/21、6/4、6/18、7/2、7/16、10/1、10/15、10/29、11/19、12/3、12/17）
13:30～15:00
［受講料］14,400円

4　アジアの風土と民族音楽～概説と比較文化論の試み～　〈6回〉

せこやすお
瀬古康雄
シタール奏者
しまねガムラン主宰
「庭火祭・国際民族音楽祭IN八雲」実行委員会副委員長(企画・演出担当)
しまね多文化共生ネットワーク委員（企画担当）
島根県立大学短期大学部非常勤講師



アジア各国の民族音楽や舞踊はそれぞれの国の自然や文化に深く根ざしているように感じられます。インド、中国、そして日本、それぞれの音楽は、その国の人々に世代を超えて愛され、いわば、「自己の存在了解の仕方」とでも言うべき「風土性」を持っています。この講座は、民族音楽は初めてという人のための入門講座で、インド音楽を中心にして、現地で収録したビデオや熊野大社で行われた庭火祭などの日本公演のビデオを鑑賞します。また、仏教伝来の跡をたどって、シルクロード各地の伝統音楽を取り上げ、アジア各地の風土と民族音楽の比較を試みたいと思います。

［参考書］特に定めませんが、参考文献を適宜提示するとともに、授業で使用したCDやDVDを閲覧可能にします。

［日時］第２土曜日（5/14、6/11、7/9、10/8、11/12、12/10）　13:30～15:00
［受講料］7,200円

5　観想行入門　〈6回〉

しみずたにぜんけい
清水谷善圭
安来清水寺第６世貫主
特定非営利活動法人中村元記念館東洋思想文化研究所理事長

仏教の修業は全て観想行といっても過言ではなく、己を見つめ、仏を見つめながら、また念仏を唱え、山を歩きながら仏の姿形、仏の心を思い浮かべ、また悟りに至る道を思い廻らすことを申します。本講座は座禅を中心として様々な修行方法を学んでいただきます。

特に今年は不動禅、菩薩禅、如来禅の実践を中心として実習していただきます。

肩苦しく考えず、仏教を楽しく学び、楽しんで修行をしていただける講座にしていきたいと思っています。是非多くの皆様のお申込みをお待ち申し上げます。

［日時］第４木曜日（4/28、5/26、6/23、7/28、10/27、11/24）　10:20～11:50
［受講料］7,200円

6　無量寿経を読む　〈6回〉

さいとうしゅんけん
齊藤 舜 健
浄土宗総合研究所専任研究員

我が国には、南無阿弥陀仏と口に称えることで救われること説く仏教の宗派が多くある。浄土系と分類されるそれらの宗派所属の寺院数は約30,100ケ寺で、全仏教寺院の四分の一強である。公称信者数で見ると全仏教信徒の約半数が浄土系宗派の信者である（平成21年度文化庁統計）。

わが国の浄土系宗派の多くは法然（1133-1212）から始まる。法然がその教えの根拠としたのが『無量寿経』『観無量寿経』『阿弥陀経』という三経典で、浄土三部経と呼ばれる。そのうち『無量寿経』には、阿弥陀仏が仏となった経緯、阿弥陀仏によって救われる理由などが述べられている。これは中国の善導（613-681）や法然の理解を通すことで、わが国の浄土教・阿弥陀仏信仰の根元となった。信徒数の多さとあいまって、この方面でのわが国の精神文化への影響は尽大なものといえよう。一方で、インドの初期大乗仏教以来の菩薩思想、現在他方の諸仏の思想に基づく経典でもある。『無量寿経』は漢訳されて以後、中国において多くの註釈研究があり、わが国でも伝来以後様々に理解されてきた。特に法然以後は浄土系諸宗派の宗義学の立場からの研究の積み重ねがあり、内容はもちろん、語句や構文の理解に到るまで、宗義学的な裏づけが求められたり、後付の解釈が与えられることがあった。その影響は極めて深刻で、それらの理解を離れての『無量寿経』読解は困難な点がある。そこで本講座では、インド仏教と法然の浄土教という二つの方向から『無量寿経』を読み解く。今年度は27年度からの継続で、阿弥陀仏の本願（四十八願）の途中から読み始める。テキストの読み込みと併せて、背景にある仏教の教理や文化的な話題も解説しながら、理解を深めてゆきたい。

［参考書］『浄土三部経（岩波文庫）』中村元他訳（岩波書店）
『浄土三部経の研究』藤田宏達（岩波書店）

［日時］第３金曜日（5/20、6/17、7/15、10/21、11/18、12/16）　13:30～15:00
［受講料］7,200円

7　宮沢賢治《文語詩稿》を島根から読む　〈6回〉

しまだたかすけ
島田隆輔
中村元記念館東洋思想文化研究所研究員

宮沢賢治と〈島根〉とは、実に長いあいだ好意を寄せ合ってきた。もちろん双方向にである。

たとえば、中学生の賢治が、旧制松江中学校出身の英語教師、米原弘と青柳亮とに学び、晩年に命を削りながら文語詩を制作していったなかで、ふたりの記憶を、肖像詩篇として造形している。

たとえば、益田出身の岡﨑澄衛が盛岡で医学を学んだとき、病床の詩人には会えなかったが、その後の生き方のよりどころとしていた。また、松江出身の入沢康夫は、賢治の自筆原稿を読み解いて全集を編み、この詩人に重ねて詩作をおこなってきた。

そういう〈島根〉から、宮沢賢治を読んでみたいと思います。

［日時］第２土曜日（5/14、6/11、7/9、10/8、11/12、12/10）　13:30～15:00
［受講料］7,200円

8　法華経の世界　〈6回〉

おかだ ゆきひろ
岡田行弘
神戸女子大学名誉教授
瀬戸短大名誉教授
妙興寺住職

法華経は、東アジアの仏教圏において最も愛好され、また信仰された経典です。「すべての人が仏に成れる」ことを教える法華経は、鳩摩羅什訳の優れた漢訳『妙法蓮華経』によって日本の思想や文化にも深い影響を与えました。

今回の講義「法華経の世界」は次の６回の構成といたします。

１．法華経の成立と背景
２．法華経前半を読む
３．法華経後半を読む
４．法華経における父と子の物語
５．法華経を信仰した人々
６．和歌に詠まれた法華経

初回はインド仏教の歴史の中で大乗仏教がどのようにして誕生したのか、またそのなかで法華経がどのような位置にあるのかを解説します。そもそも経典とはなにか、ということを正確に理解することは容易ではありません。次の第２回と第３回は法華経が全体として何を説いているのかを分かりやすく説明します。特にどのような場面設定で、誰を対象に説かれているのかに注意しながら読み進めて行きたいと思います。法華経は教義を説き明かすために物語を用いています。第４回ではその中から父と子の３つの物語を紹介します。第５回と第６回は日本において法華経がどのように受け入れられたかの実例です。第５回は法華経を信仰した人々の代表として日蓮と宮沢賢治についてお話しします。第６回は法華経を詠んだいくつかの和歌を鑑賞します。歌人たちは法華経の教えを深く理解した上で自らの言葉で的確に歌っています。

法華経は仏教のあらゆる分野が総合的に含まれている経典です。その広大な世界には様々な方面からアプローチすることができます。法華経の教えの基本を知った上で、今を生きる私たちに与えてくれる経典の知恵と力を感得して頂ければ幸いです。

［参考書］『ブッダ永遠のいのちを説く』渡辺宝陽（日本放送出版協会）
『法華経（現代語訳　大乗仏典２）』中村元（東京書籍）

［日時］第２火曜日（5/10、6/14、7/12、10/11、11/8、12/13）　13:30～15:00
［受講料］7,200円

9　ものがたり環境宗教学　〈6回〉

おかだ まみこ
岡田真美子
兵庫県立大学名誉教授
日本学術会議会員
中村元記念館東洋思想文化研究所主任研究員

仏教説話、寺社縁起、能や歌舞伎などの伝統文献のなかには、動物が主人公となっている物語が多くあります。それらを見ていると、疫病、飢饉、干魃の続く中、あるいは悪政や、男女差別など、劣悪な環境のもとで、精一杯活躍する様々な動物たちが記されています。そんな物語をひもときながら、虫やけものたちに温かいまなざしを注いで来た先人たちの思いを学びます。そうすることで、きっと今までとは異なる環境観が身に付き、世界を新鮮な眼ざしで見ることができるようになるでしょう。

［日時］第３水曜日（5/18、7/20、9/21、11/16、1/18、3/15）　13:30～15:00
［受講料］7,200円

10　チベット仏教を目指した東西の先駆者たち
―能海寛、河口慧海、チョーマ・ド・ケレスの物語―　〈6回〉

おかざきひでき
岡﨑秀紀
中村元記念館東洋思想文化研究所研究員
学芸員
能海寛研究会会長

19世紀以降、政治的、地理学的、宗教的な観点から、洋の東西でチベットへの関心が高まりました。1824年ネパールでサンスクリット経典が発見されると、欧州で仏教原典の研究が盛んになりました。欧州仏教学の創立者と呼ばれるフランスのE.ビュルヌーフは『インド仏教史序説』(1844)を書き、仏教の体系的研究の基礎を与えました。その学問研究の継承者の一人が、イギリスのM.ミューラでありました。ミューラに師事した南條文雄は、『大明三蔵聖教目録』刊行（1883）などで大きな成果をあげて帰国し、日本の近代サンスクリット学を樹立したのでした。

戦前にチベットに入った日本人は10人いました。能海寛をはじめ、『西蔵旅行記』（1904）で知られる河口慧海、寺本婉雅、成田安輝、矢島保次郎、多田等観らです。能海のチベット直轄領パタン入りは1899年、慧海のラサ入りは1900年のことでした。能海や慧海ら日本人僧侶は、仏教の原典を求める目的を持って入蔵したのでした。インドで失われたサンクスリット語仏教経典は、その忠実なチベット語訳がチベットに残されていました。

慧海の入蔵計画を大いに刺激したのが、S.ビール著『Buddhism in China』(1884) で知ったハンガリー人チョーマ・ド・ケレスの業績でした。彼は民族のルーツを探る目的で中東、中央アジア、インドを経てチベットを目指しました。『蔵英字典』（1834）を編集するなど、西洋チベット学の祖と呼ばれています。能海も慧海もチョーマの字典を利用していました。このように、19世紀、東洋、西洋でチベット仏教を求法、研究した先駆者たちの動きは繋がっているのです。

講座では、チベット仏教経典の入手と英語翻訳を目的として入蔵した能海寛、日本人で初めてラサに入り長期滞在してチベット仏教を学んだ河口慧海、チベット学に多大な貢献をしたチョーマ・ド・ケレスの３人をとりあげ、彼らの生涯と業績を学びます。また、20年間の研究で得た、能海寛研究の成果をいろいろお話ししたいと思います。国内外で行った調査研究活動から得られた新発見の事柄などを、調査の楽しさを交えながら、紹介します。能海の出身地、金城町でのフィールドワークも計画しています。松江市出身で中村元博士の姻戚であり、日本初のフランス派建築家・都市計画家と呼ばれる山口半六の業績についても、紹介できたらと願っています。

［日時］第３土曜日（10/15、11/19、12/17、1/21、2/18、3/18）　15:30～17:00
［受講料］7,200円

11　出雲学概論　〈6回〉

ふじおかだいせつ
藤岡大拙
島根県立大学短期大学部
名誉教授

古代出雲を中心に、出雲神話、神祇信仰、神社の実態、神仏習合過程等を述べ、続いて大和政権の支配下に入ってからの出雲が、どのような歴史を辿るかを、伊勢と出雲の二極の相関関係の中で考え、現在の出雲のよって来る歴史的因子を探りたい。

［日時］第２水曜日（5/11、6/8、7/13、10/12、11/9、12/14）　10:20～11:50
［受講料］7,200円

2016年度　集中講義　講義内容

12　仏典『真理のことば』（『法句経』）を読む（その２）　〈４コマ〉

まえだ せんがく
前田專學

文学博士　Ph.D.
公益財団法人中村元東方研究所理事長
東方学院長
中村元記念館館長
中村元記念館東洋思想文化研究所　所長
東京大学名誉教授
武蔵野大学名誉教授
史跡足利学校庠主

仏典は無数と言ってもよいほど沢山ありますが、その中でも開祖ゴータマ・ブッダのことばに最も近く、おそらく最も有名な仏典は『真理のことば』です。昨年９月の特別講座で読み始めましたが、読み終わることができませんでした。今年度はその続きを読みたいと思っています。昨年の講義に出席されなかった方も大歓迎です。

［参考書］『ブッダの真理のことば　感興のことば』中村元訳（岩波文庫）
（購入が望ましい）

［日時］4/11（月）13:30～15:00，15:20～16:50
4/12（火）10:30～12:00，13:30～15:00
［受講料］4,800円

13　インド哲学と因果応報思想　〈4コマ〉

まるい　ひろし
丸井　浩
東京大学大学院人文社会系研究科教授
公益財団法人中村元東方研究所常務理事

「袖振り合うもタショウの縁」の「タショウ」は、「多少」ではなく、「他生」または「多生」と書くのが正しい。見ず知らずの人と服の袖が触れ合う程度の些細な出来事であっても、必ずそこには起こるだけの理由があり、その理由は前世（他生）、あるいは数々の前世（多生）に、そのような縁を作る行いを過去の自分がしていたからだ、という意味であり、すべてのもの・ことには、必ずそれを引き起こす原因、あるいはそれを支える要因があるという仏教の縁起思想と、インド古来の輪廻思想が息づいている珍しい諺である。

縁起思想は、哲学の領域としては「因果性」という問題に属していると言えるだろう。因果性の問題は、古くは、宇宙の創造、世界の成り立ちを問う宇宙生成論や、事象、出来事が起こる原因、条件といったことを掘り下げていく形而上学的な議論が含まれている。しかしインドの因果思想はそのような単なる物理的因果の問題を扱うばかりでなく、各人の行為は将来に相応の結果をもたらすという業思想、因果応報といった道徳的、倫理的、あるいは宗教的な因果律が重要なトピックになっている。

ブッダ以前に成立した最古のウパニシャッドには、万有の根源である一者（ブラフマン）から、どのようにして私たちの個々の命や、多様な現象世界が生れてくるのかを、論理や比喩を用いながら説明しようとする哲学的思惟が芽生えているが、それと並行して、善因善果・悪因悪果といった業思想も登場してくる。来世にどのような生れ方をするかは生前の行い次第で決定される、という業・輪廻の思想が成立したのである。しかし自業自得の因果律に支配されている限り、生死の連続から逃れることはできない。

自業自得の法則から抜け出ること、つまり解脱はどのようにすれば実現できるのか。ウパニシャッド思想が芽生えて以降、インドの哲学者と宗教家が最終的に目標としてきた終着点が解脱である。ブッダもまた解脱を求めて出家した。解脱はすべての差異、対立を超えた境地。倫理・道徳の基礎となる善悪という二項対立をも超えている。

科学技術の発達によって、現代の人間は古代の人間よりも欲望を充足するための手段は、はるかに強力になったと言えるだろう。しかしその反面、欲望に支配される生き方そのものを制御し、方向づける倫理、道徳、宗教の力は弱体化してしまった。

この講義では、哲学と宗教が相互に補完し合う形で展開してきたインド思想を、因果思想の面から問い直し、ひいては、インド哲学あるいは仏教の縁起思想の現代的な意義を探ってみたい。

［日時］平成29年　3/7（火）13:30～15:00，15:20～16:50
3/8（水）10:30～12:00，13:30～15:00
［受講料］4,800円

14　仏教聖典へのいざない　〈4コマ〉

釈（しゃく）　悟震（ごしん）
中村元記念館東洋思想文化研究所副所長
文学博士
公益財団法人中村元東方研究所専任研究員
スリランカ国立ベラデニア大学客員研究員

「八万大蔵経」とも言われるほど膨大な仏教の経典。どうして仏教はこれほど経典が多いのか。その理由や真の意味はどこにあるのか。またわたくしどもは、どれだけの経典の内容や意味を理解しているのであるだろうか、等々多くの疑念に対する紐を解くと同時に、われわれの日常生活文化に馴染んでいる仏教をより身近に感じさせ、摩訶不思議なる心の安らぎを覚えさせる講義であって欲しいと願っております。

そこで本講義では、長い間、もっとも難解で親しみやすくない仏教の聖典をわたくしどもが親しみやすくなるように日頃、心血を注いだ中村元博士の数多くの珠玉の教説により『スッタニパータ(経集)』、『ダンマパダ(法句経)』、『般若心経』、『華厳経』、『法華経』、『維摩経』、『勝鬘経』、『父母恩重経』、『観音経』、『金剛経』など著名な仏教聖典を、説話やエピソードを交えてつづられた『仏教経典散策』を主要テキストとして、より分かり易く、担当講師独自の目線にて仏教聖典への思惟方法を踏まえて、そのいざないを講じてまいります。

［テキスト］『仏教経典散策』中村元編著（東京書籍）
（購入が必要）

［日時］10/23（日）13:30～15:00，15:20～16:50、10/24（月）10:30～12:00，13:30～15:00
［受講料］4,800円

15　仏教と日本文化　〈4コマ〉

蓑輪顕量（みのわ けんりょう）
東京大学大学院教授
博士（文学）

仏教は日本に伝来した後、大きな影響を日本文化に及ぼした。とくに中世の時代には、能楽やお茶の文化に大きな影響を与えた。それは、天台と禅宗の影響によるものが著しい。この講義では、茶道において、仏教の与えた影響を中心に考察したい。今、日常に飲むようになっているお茶は、早くは天平時代にすでに伝わっていたことが資料から知られる。そのころのお茶の飲み方は、団茶と呼ばれる格式張ったものであった。お茶は中国において陸羽という人物が『茶経』を書いたところから、大きく展開しているようである。お茶には、団茶、抹茶、煎茶という三種類の飲み方が存在するが、時代的に流行が存在し、その最初期を飾るものが、団茶であった。この団茶は塊のお茶を粉にしてお湯に投じて飲むものであった。長安の郊外の法門寺には、唐代の最高のお茶道具が伝わったことで有名である。

さて、日本においては、平安時代にこの団茶を飲んでいたことを彷彿させる記事が『菅家文草』の中に見える。後にしばらくお茶の記録は見えなくなるが、これはお茶自体がそれなりに普及をしたことが背景にあると考えられる。これが再注目されるのが、中世初頭の禅宗僧侶、すなわち栄西による抹茶の飲み方が再輸入された時以降である。中国宋代、禅宗の叢林に存在したお茶の習慣が、日本に紹介され広まっていくことになったのであるが、この叢林のお茶の作法は格式張ったものであった。それは「禅院茶礼」と呼ばれ、寺院の儀式の一部でもあった。このお茶の飲み方が、「下々のお茶」と呼ばれた格式張らないお茶の飲み方と融合し、やがて日本独自の茶道が成立するのである。

思想的に仏教の影響が見られるのは、この抹茶を飲む茶道においてである。その出発点に位置する人物が奈良の浄土宗の僧侶であった村田珠光である。彼は大徳寺の一休宗純に参禅して教示を受けたところから、禅と茶道は切っても切り離させないものとなった。その最終的な姿は、江戸時代初期の『禅茶録』に結実する。

このように中世の時代には禅林の影響の中で抹茶が、近世には黄檗宗の影響で煎茶が広まった。本講義では、古代から近代に至るまで、お茶の歴史と仏教思想との関わりを講義する予定である。

［日時］8/6（土）13:30～15:00、15:20～16:50、8/7（日）10:30～12:00、13:30～15:00
［受講料］4,800円

16　画像で見る世界の宗教と倫理と哲学　〈4コマ〉

よしだ ひろあき
吉田宏哲
大正大学名誉教授
博士（文学）
真言宗智山派宥勝寺住職

私たち一人一人が自分の人生をどう生きるかとか、愛する者の死をどう受け止めるかとか、本当の幸せとは何だろうかとか、人生の悩み苦しみの根本的な原因は何だろうかとかいう疑問に、宗教や倫理や哲学は解答を与えてきたと言えます。ただ自分のその疑問にある宗教や哲学が本当に答えてくれているかどうかは、自分がそれを学び納得して心の糧にしなければならないでしょう。今回の講座では多種多様な世界の宗教と倫理と哲学の特徴を、様々な画像を紹介しながら講義したいと思います。前回は「画像で見る世界の宗教」というテーマでしたが、今回は倫理と哲学についても考察したいと思います。ソクラテスは世界で最初の哲学者であると言われていますが、彼が哲学者になった動機はデルフォイの神託に反証しようとしたからだと言われています。そして人間の究極的な徳は善であると考えました。この話の中に実は今回のテーマである宗教（神託）と倫理（善）と哲学（真理）が含まれています。ソクラテスの弟子はプラトン、プラトンの弟子はアリストテレスですが、このアリストテレスの哲学はイスラム教、キリスト教の神学に大きな影響を与えました。西洋近世の哲学はデカルトから始まりますが、その方法は「（神も含めて）全てのものを疑う」ということから出発しました。現代社会は科学万能の時代ですが、その哲学的な基礎づけはカントに依っていると言えます。そしてカントの哲学はデカルトなしには考えられないのです。さて一方、インドと中国でも初めは神話的世界観が支配的でした。しかしこの神話的世界観に対して、インドでは六師外道と呼ばれる唯物論者、懐疑論者が現れ、さらにこの両派（ヴェーダの宗教と六師外道）の主張を超越するものとして、釈尊の仏教が広まりました。また中国では古い神話的儒教から孔子の新しい儒教が説かれ、また不老長生を目指す老子の道教が、儒教とともに皇帝や庶民に信仰されました。また紀元一世紀頃、中国に伝来した仏教は儒教、道教にはない宗教性、哲学性、実践力の力で広く、深く中国人の中に浸透していきました。この中国仏教が日本にもたらされ、奈良、平安の仏教文化を花開かせ、また鎌倉仏教へと引き継がれていったことは言うまでもありません。わが国では公的教育において宗教教育がほとんどなされていません。ましてや宗教と倫理と哲学の関係や、世界歴史におけるその実際は教育されていないと思います。この講義では以上の諸問題について画像を見ながら講義をしたいと思います。

［日時］6/25（土）13:30～15:00，15:20～16:50
6/26（日）10:30～12:00，13:30～15:00
［受講料］4,800円

17　天台四教儀（2）　〈4コマ〉

三友健容（みともけんよう）
立正大学名誉教授
文学博士
法華経文化研究所顧問

二千五百年ほどまえインドのゴータマ・シッダルタ（釈尊）によって始まったおしえは、因果の道理をもととした非常に合理的で分かり易いものだったが、人々の限りない悩み、苦しみなどに対応して、次第に増補され通常八万四千の法門といわれるほど多くなった。

これらのおしえはインドから西域を通って中国に伝わったが、途中で盗賊にあったり、砂嵐などに遭遇したりして多くの経典が失われ、無事たどり着いた経典だけが無秩序に漢訳されたため、どれが釈尊の真意であるのか、説かれた順番はどうであったのか分からなくなり、これらの経典の整理研究運動が起こった。

隋の天台智者大師智顗（538-597）は、この順番を五段階によって説明し仏教の究極的な到達点を円満具足した円教とした。智顗は坐禅を重んじ円教の教理を説いたが、非常に大部であり難解であった。

文化絢爛を誇った唐も907年に滅びると戦乱が相次ぎ唐末五代の戦乱で多くの典籍が灰燼に帰してしまった。中国南部の呉越の忠懿王が国を治めるかたわら『永嘉集』を読んでいたとき、「同除四住」の言葉に突きあたったが、焼失してしまった『法華玄義』の一節であること以外だれに訊いても解らなかった。そこで高麗と日本に使者を派遣し、『法華玄義』など焼失した書籍を求めたところ、高麗から諦観が多くの書籍をもってやってきて、天台山に数年留まり亡くなった。没後、遺品を納めた筐から光りを発するものがあり開けてみると、『天台四教儀』であったという。

『天台四教儀』は、仏教の入門概説書として多くのひとびとに読まれ継がれ、小論だが非常によく出来たすばらしい天台学の必読書である。しかしながら、いまやこの小論ですら正確に解説できるひとも少なくなってきてしまった。その理由は「アビダルマを知らずして天台を語るは底抜け天台、腰抜け円頓だ」といわれるほど、アビダルマの正確な知識が必要とされ、昔から「唯識３年、倶舎８年」といって、アビダルマ（『倶舎論』）の理解には８年以上の歳月をかけた研鑽が必要とされてきたからである。

今回の講義では、名著『天台四教儀』を通して仏教の深奥な教理を、たっぷりと味わっていただき、「同除四住」にも触れる予定である。

［日時］7/5（火）13:30～15:00，15:20～16:50
7/6（水）10:30～12:00，13:30～15:00
［受講料］4,800円

18　神と仏の変奏 ―日本的仏教の一側面―　〈4コマ〉

加藤（かとう）みち子
中村元東方研究所専任研究員
学習院大学非常勤講師
青山学院大学非常勤講師

日本仏教の特色は神仏習合とよく言われますが、実際のところ仏と神がどのような形で「習合」しているのかということはあまり知られていないように思います。実は仏・菩薩と神々の関係というのは、最初から一定の形に定まっていた物ではなく、歴史的なプロセスを経て次第に変容・発展を遂げてきたものなのです。

この講義では、外国から伝来した仏教の仏や菩薩と神々がどのように出会い、どのように変容しつつ日本的仏教が発展したのかということを、三つの切り口から見ていきます。第一は、スサノオノミコトやアマテラスオオミカミなどの日本神話で有名な神々の変容。第二は、閻魔大王とお地蔵様の関係。第三は、摩多羅神と阿弥陀仏の関わりです。これらの仏・菩薩と神々の関係を通して、日本的仏教の一側面につきご紹介していきたいと思います。

①仏や菩薩と日本の神々の出会い

第一時間目は、「神仏習合」の一言で説明される日本仏教の特色が、どのように歴史的発展段階をへて次第に進んでいくかということを紹介します。当初、仏教理論においては「苦しむ衆生」にしかすぎなかった日本の神々が、仏教を学びながら修行者である「菩薩」へ、更に「仏」と同体の存在へと発展していく様子を読み解いていきます。

②スサノオノミコトとアマテラスオオミカミの変貌

第二時間目は、日本神話で有名なスサノオノミコトとアマテラスオオミカミを例として取り上げ、仏教との出会いにより、それらの神々が主に古代から中世へとどのように変容していくのかということを、歴史資料をや映像資料を用いてご紹介していきます。

③閻魔王と地蔵菩薩の関係

第三時間目は、地獄の裁判官として有名な閻魔大王の変容と地蔵菩薩との関係を見ていきます。閻魔大王というのも実は「神」の一種です。ここでは、閻魔王とお地蔵様の不思議な繋がりを、絵画や彫刻など図像資料を用いてみていきながら考えます。

④摩多羅神と阿弥陀仏の関わり

第四時間目は、安来市の清水寺で最古の彫刻が発見されたことで有名な摩多羅神という神と、仏教の阿弥陀仏の関係を通して、日本的仏教の形を見ていきます。摩多羅神は、大陸から渡来した神なのですが、この神が阿弥陀仏と切っても切れない関係を持つようになったのは日本に来てからです。この関係を見ながら日本仏教の特色をまとめて最終回といたします。

以上の４回の講義を通して、日本における神と仏の変奏曲をご一緒に味わってまいりましょう。

［参考書］『「かみ」は出会って発展する』加藤みち子（北樹出版）
『アマテラスの変貌』佐藤弘夫（法蔵館）

［日時］5/7（土）13:30～15:00，15:20～16:50
5/8（日）10:30～12:00，13:30～15:00
［受講料］4,800円

19　アメリカ人による仏教の捉え方と実践 ―日本仏教への示唆―　〈4コマ〉

田中（たなか）ケネス
武蔵野大学教授
武蔵野大学仏教教育部長
日本仏教心理学会会長
国際真宗学会会長

アメリカの仏教徒は、この40年間で17倍も増え、全米人口の1.2パーセントに当たる350万人となっている。彼らに加え、仏教徒とは断言しないが仏教的行動をとるナイトスタンド・ブディスト（Nightstand Buddhist）や仏教に強く影響された人々を含めば、全米人口の10パーセント（約3000万人）という驚く数になる。著名仏教徒としては、リチャード・ギア（映画俳優）、タイガー・ウッヅ（ゴルフ選手）、オリバー・ストーン（映画監督）、ティーナ・ターナ（歌手）、ハービー・ハンコック（ジャズ・ピアニスト）などがいる。また、ナイトスタンド・ブディストとして、フィル・ジャクソン（天才的バスケットボール監督）や故スティーブ・ジョブス（アップル社創立者）が挙げられる。ヨーロッパでも同じような現象が見られ、フランスの仏教徒の数は人口の４パーセントという驚くべき報告もある。

もちろん、アメリカ人口の約70パーセントはキリスト教であり、圧倒的な影響力を保っているが、仏教は、21世紀の半ばには、ユダヤ教を抜いて米国第二の宗教となる可能性が高まって来た。

前回は、アメリカ仏教の社会的現象（人口、宗派等）に重点を置いたが、今回は、アメリカ人による捉え方と実践に重点を置くことを目指す。例えば、偉大な科学者アルベルト・アインシュタインは、仏教に未来の宗教として特別な期待を抱いていた。また、映画俳優リチャード・ギアの慈善事業の動機とは、仏教精神に基づいているのである。更に、仏教思想・世界観は、環境問題に携わる活動家の原動力となっている。それを代表するのは、社会活動家のジョアナ・メイシーという既に80才となる女性である。

以上のような方々の捉え方と実践を明らかにし、それを日本仏教が直面する課題の改善策へのヒントとしてどのように活かせられるかと、受講生の皆様と一緒に考えることにする。アメリカ仏教の歴史は、日本の十分の一しかないが、最初から「現代」宗教であったことが、日本仏教にとって参考になることが期待される。

［参考書］『アメリカ仏教―仏教が変わる、アメリカも変わる』
ケネス・タナカ（武蔵野大学出版会）

［日時］9/24（土）13:30～15:00，15:20～16:50
9/25（日）10:30～12:00，13:30～15:00
［受講料］4,800円

20　大乗仏教のエッセンスと智慧の経典・般若経　〈4コマ〉

わたなべしょうご
渡辺 章 悟
東洋大学文学部教授

第一回は「大乗仏教のトップランナーとしての般若経」です。

般若経は最初に〈大乗〉を宣言した経典として知られています。その特色と言えば、空と悟りの智慧があげられます。しかし、実際には般若経とは単一の経典ではなく、四十数種の経典群なのです。その内容も成立もさまざまで、それ自体が大乗仏教の多様性を示しています。本講座では、それら般若経典群をスケッチし、幾つかの著名な般若経のエッセンスや、それとは全く異なる驚くべき般若経のすがたを紹介し、未知なる般若経の世界へと誘います。

第二回は「大般若経からのメッセージ」です。

この経典は正式には「大般若波羅蜜多経」といい、三蔵法師で知られる玄奘三蔵によって訳された、600巻からなる仏典最大の経典です。この経典は、般若部の諸経典を集大成した一大叢書で、わが国で知られるほとんどすべての般若経典を含みます。この経典には、般若経の読誦、書写、思索などによるさまざまな功徳が説かれていることから、除災招福、鎮護国家を目的として受持されてきました。特にわが国においては、703年（大宝３）文武天皇のとき『大般若経』の転読が行われたことを端緒として、勅命により、宗派の別なく転読が行われてきました。現在でも〈大般若の転読〉はよく知られている風物詩です。この大般若の独特の信仰を考えてみようと思います。

第三回は「『金剛般若経』を読み解く」です。

この経典は『般若心経』と並んで東アジアにおいて最もよく知られた経典です。翻訳や注釈の種類もそうですが、霊験譚や歴史書にも最も多く登場する仏典です。その内容は伝統的な仏教で尊重されてきた根本教義を、ユニークな否定論法のもとに、ことごとく喝破することで知られています。本講義はそのエッセンスを読み解いてみたいと思います。

第四回は「『般若心経』の世界」です。

『般若心経』ほど世間に知られた仏典はないでしょう。しかし、この経典がいつ、どこで、どのように成立したのかについては、ほとんど知られていません。本経は大乗経典の代表である般若経の一つのダイジェスト版ですが、この講座では『般若心経』の仏典の位置づけを考察しながら、経典の描く信仰世界、日本人が生んだ音にもとづく『般若心経』、絵で読む『般若心経』などの未知の『般若心経』の世界をともに開いてみたいと思います。

［参考書］『般若心経』渡辺章悟（大法輪閣）
『般若経大全』渡辺・小峰・勝崎（春秋社）

［日時］平成29年　3/25（土）13:30～15:00，15:20～16:50、3/26（日）10:30～12:00，13:30～15:00
［受講料］4,800円

21　ジャイナ教のマンダラについて　〈4コマ〉

やじまみちひこ
矢島道彦
駒澤大学客員教授
曹洞宗長林寺住職
日本仏教教育学会会長
東京大学非常勤講師
東洋大学非常勤講師

マンダラといえば、仏教の専売特許のように思われていますが、呼び名は異なるものの、じつはジャイナ教にもよく似たものが伝わっています。今回はこのジャイナ教のマンダラについて、文献と図像と儀礼という３つの面からお話します。

仏教のマンダラ儀礼はインドでは失われたとされていますが、ジャイナ教のマンダラ儀礼を調べることで、その実態に多少とも迫ることができるように思います。現地調査で得た豊富な写真データをご覧いただきながら、皆さんをジャイナ教のマンダラ世界にお連れします。

［日時］11/5（土）13:30～15:00，15:20～16:50、11/6（日）10:30～12:00，13:30～15:00
［受講料］4,800円

22　仏教とイスラム教　その遠くて近い宗教関係　〈4コマ〉

保坂俊司（ほさかしゅんじ）
東方学院講師
中央大学大学院教授

無慈悲なテロやＩＳの蛮行で、一層イスラム教への日本人のイメージは、悪くなってしまいました。

また、自らを絶対視し、他者の生命を軽んずるかのようなイスラムという宗教への恐怖あるいは嫌悪が、世界中に広がっていることも事実です。

確かに現在の国際社会の混乱の背景には、イスラム独自の教えに起因することが多々ありますが、しかし、それは、決してイスラムそのもののではありません。それは戦前の日本が「国体神道」による「聖戦」を唱えて戦争を行ったからと言って、それが神道そのものである、と言えないのと同様な理屈です。このように言うとあるいはイスラム贔屓のそしりを受けるかもしれませんが、しかし、このような理解も実は、今回の一部ではありますが、過激派イスラムの暴走の背景と通じるところがあるのです。

いずれにしても、一部のイスラムをそのように極端な解釈にはしらせた状況を理解する必要があるのです。

そして、それこそ現在の国際社会の一般論に欠けているところです。もちろんイスラム側にもそれは言えますが。

いずれにしろ、両者の溝は憎悪と無理解で深まるばかりです。そしてそこには、他者への尊敬と生命を尊重する心がかけているといえます。

というわけで公正に、そして広くかつ温かいこころでイスラムを知ることが、現在社会に求められています。とはいえ、実は、イスラムそのものを直接知ることは、日本人には特に難しいのです。というのも、日本人が慣れ親しんでいる仏教や神道とイスラムは構造的にかなり異なるからです。

そこで、日本人が、イスラムの言説や文化を理解するには、ちょっと回り道ですが、仏教との比較が効果的です。

というわけで、本講座ではイスラムを理解するために、仏教との比較を行うという方法を取ります。

詳しくは、拙著『イスラムの拡大と格差社会』プレジデント社、2015年をご参照ください。

［参考書］『ブッダとムハンマド』保坂俊司（サンガ）

［日時］9/1（木）13:30～15:00，15:20～16:50
9/2（金）10:30～12:00，13:30～15:00
［受講料］4,800円

東方学院松江校 2016年度お申し込みと受講料のご案内

●お申し込みと受講料

●新規入会者は入会金￥10,000、継続会員は継続事務費￥5,000と、お申し込み講座の**受講料総額**をお振り込みください。

●各講義の受講料は、講義一覧（６・７ページ）でご確認ください。

●過去に入会金を納入された方は、**継続会員**となります。

新規入会者	入　会　金　10,000円＋受講料
継 続 会 員	継続事務費　5,000円＋受講料

●講義によってはテキスト代が別途必要な場合があります。

●納入された受講料は原則としてお返しできません。ただし、次の場合に限りお返しいたします。

- 受講申込みをされた講座が、講師や当校のやむを得ない事情により実施できなかった場合。
- 受講申込みをされた講座が休講になり、補講を実施できなかった場合の休講分の受講料。

●「中村元記念館友の会」会員の方は、入会金または継続事務費が１割引となります。詳しくは28ページをご覧ください。

●受講申込みについて

●以下のいずれかの方法でお申込みください。（お電話ではお申込みいただけません。）

●郵送またはFAXの場合の申込手続きは、ご入金された時点で完了いたします。

◆受付窓口でのお申込み

受講申込書（23ページ）にご記入のうえ、入会金と受講料を添えてご提出ください。
（窓口での受付時間　10:00～17:30　月曜日を除く）

◆郵送またはFAXでのお申込み

１．**受講申込書**（23ページ）にご記入のうえ、下記まで送付ください。
〈郵送の場合〉〒690-1404　島根県松江市八束町波入2060　中村元記念館
〈FAXの場合〉FAX番号 0852-76-9693

２．入会金あるいは継続事務費と受講料を、**申込日から1週間以内**に下記の口座までお振込みください。

- 振込手数料はご負担ください。
- 振込のご依頼人の名前が、申込書と同じ名前であることをご確認ください。
- 振込の場合、領収書は発行いたしません。振込の際に発行される控えを大切に保管してください。

《振込先》**■ゆうちょ銀行**　**※手引きに添付の払込票にて下記振込口座宛にご入金ください。**
口座番号　０１３７０－８－９１２２８
加入者名　中村元記念館

■山陰合同銀行　松江駅前支店（店番号004）
口座番号　普通３６９４６２８
口 座 名　特定非営利活動法人中村元記念館東洋思想文化研究所

●その他

●松江校では、各定期講義の第１回目、第２回目の講義のいずれかに限り、体験受講を実施しております。体験受講を申し込まれた方には、講義に必要なテキストやレジュメなどを貸与いたします。（体験用テキスト等はご返却いただきます。）

2016年度　東方学院松江校受講申込書

◆ 太枠内をご記入ください。

申込日	平成　　年　　月　　日	会員申込区分（該当欄に☑を入れてください） ※過去に松江校研究会員になったことのある方は継続扱いとなります。 ※友の会会員は１割引となります。詳しくは28ページをご覧ください。	
フリガナ			
氏　　名	男・女	□新規　入 会 金　10,000円	□新規（友の会会員）　入 会 金　9,000円
生年月日	年　　月　　日	□継続　継続事務費　5,000円	□継続（友の会会員）　継続事務費　4,500円
住　　所	〒　　－		
電話番号	－　　－	携帯電話	－　　－
FAX番号	－　　－	E-mail	

◆ 受講を希望する講座の太枠内に○をご記入ください。

	番号	講義名	講師名	受講希望講座	受講料	事務局記入欄 受領日	担当	データ
定期	1	仏教は何を説いているのでしょうか（前期）	三桐　慈海		16,800円			
	2	仏典解説（後期）	三桐　慈海		12,000円			
	3	仏教の歩みを尋ねて	藤島　建樹		14,400円			
	4	アジアの風土と民族音楽	瀬古　康雄		7,200円			
	5	観想行入門	清水谷善圭		7,200円			
	6	無量寿経を読む	齊藤　舜健		7,200円			
	7	宮沢賢治《文語詩稿》を島根から読む	島田　隆輔		7,200円			
	8	法華経の世界	岡田　行弘		7,200円			
	9	ものがたり環境宗教学	岡田真美子		7,200円			
	10	チベット仏教を目指した東西の先駆者たち	岡﨑　秀紀		7,200円			
	11	出雲学概論	藤岡　大拙		7,200円			
集中	12	仏典『真理のことば』（『法句経』）を読む（その２）	前田　専學		4,800円			
	13	インド哲学と因果応報思想	丸井　　浩		4,800円			
	14	仏教聖典へのいざない	釈　　悟震		4,800円			
	15	仏教と日本文化	蓑輪　顕量		4,800円			
	16	画像で見る世界の宗教と倫理と哲学	吉田　宏哲		4,800円			
	17	天台四教儀（２）	三友　健容		4,800円			
	18	神と仏の変奏	加藤みち子		4,800円			
	19	アメリカ人による仏教の捉え方と実践	田中ケネス		4,800円			
	20	大乗仏教のエッセンスと智慧の経典・般若経	渡辺　章悟		4,800円			
	21	ジャイナ教のマンダラについて	矢島　道彦		4,800円			
	22	仏教とイスラム教　その遠くて近い宗教関係	保坂　俊司		4,800円			

（ア）	受講料合計		円
（イ）いずれかをお選びください	入　会　金（新規の方）		10,000円
	入　会　金（新規の方･友の会会員）		9,000円
	継続事務費（継続の方）		5,000円
	継続事務費（継続の方･友の会会員）		4,500円
（ア）＋（イ）	お支払額合計		円

《送付先》

〒690-1404　島根県松江市八束町波入2060　中村元記念館

FAX：0852-76-9693

受　付	データ	入会金	受講料	備　考
／	／	／	／	

※申込用紙を郵送･FAXで送られる場合、申込み手続きはご入金された時点で完了いたします。
　申込日から１週間以内にご入金ください。

キリトリ線

2016年度　東方学院松江校　年間スケジュール

4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1金		1日		1水		1金		1月		1木	【集中】保坂	1土	藤島②	1火		1木	三桐②	1日		1水		1水	
2土		2月		2木	三桐②	2土	藤島②	2火		2金	【集中】保坂	2日		2水		2金		2月		2木		2木	
3日		3火		3金		3日		3水		3土		3月		3木		3土	藤島②	3火		3金		3金	
4月		4水		4土	藤島②	4月		4木		4日		4火		4金		4日		4水		4土		4土	
5火		5木		5日		5火	【集中】三友	5金		5月		5水		5土	【集中】矢島	5月		5木		5日		5日	
6水		6金		6月		6水	【集中】三友	6土	【集中】蓑輪	6火		6木	三桐②	6日	【集中】矢島	6火		6金		6月		6月	
7木		7土	【集中】加藤	7火		7木	三桐②	7日	【集中】箕輪	7水		7金		7月		7水		7土		7火		7火	【集中】丸井
8金		8日	【集中】加藤	8水	藤岡①	8金		8月		8木		8土	瀬古② 島田②	8火	岡田行弘②	8木	三桐②	8日		8水		8水	【集中】丸井
9土		9月		9木	三桐②	9土	瀬古② 島田②	9火		9金		9日		9水	藤岡①	9金		9月		9木		9木	
10日	ガイダンス	10火	岡田行弘②	10金		10日		10水		10土		10月		10木	三桐②	10土	瀬古② 島田②	10火		10金		10金	
11月	【集中】前田	11水	藤岡①	11土	瀬古② 島田②	11月		11木		11日		11火	岡田行弘②	11金		11日		11水		11土		11土	
12火	【集中】前田	12木	三桐②	12日		12火	岡田行弘②	12金		12月		12水	藤岡①	12土	瀬古② 島田②	12月		12木		12日		12日	
13水		13金		13月		13水	藤岡①	13土		13火		13木	三桐②	13日		13火	岡田行弘②	13金		13月		13月	
14木		14土	瀬古② 島田②	14火	岡田行弘②	14木	三桐②	14日		14水		14金		14月		14水	藤岡①	14土		14火		14火	
15金		15日		15水		15金	齊藤②	15月		15木		15土	藤島② 岡﨑③	15火		15木	三桐②	15日		15水		15水	岡田真美子②
16土	藤島②	16月		16木	三桐②	16土	藤島②	16火		16金		16日		16水	岡田真美子②	16金	齊藤②	16月		16木		16木	
17日		17火		17金	齊藤②	17日		17水		17土		17月		17木	三桐②	17土	藤島② 岡﨑③	17火		17金		17金	
18月		18水	岡田真美子②	18土	藤島②	18月		18木		18日		18火		18金	齊藤②	18日		18水	岡田真美子②	18土	岡﨑③	18土	岡﨑③
19火		19木	三桐②	19日		19火		19金		19月		19水		19土	藤島② 岡﨑③	19月		19木		19日		19日	
20水		20金	齊藤②	20月		20水	岡田真美子②	20土		20火		20木	三桐②	20日		20火		20金		20月		20月	
21木	三桐②	21土	藤島②	21火		21木	三桐②	21日		21水	岡田真美子②	21金	齊藤②	21月		21水		21土	岡﨑③	21火		21火	
22金		22日		22水		22金		22月		22木		22土	論文賞授賞式	22火		22木		22日		22水		22水	
23土		23月		23木	三桐② 清水谷①	23土		23火		23金		23日	【集中】釈	23水		23金		23月		23木		23木	
24日		24火		24金		24日		24水		24土	【集中】田中	24月	【集中】釈	24木	三桐② 清水谷①	24土		24火		24金		24金	
25月		25水		25土	【集中】吉田	25月		25木		25日	【集中】田中	25火		25金		25日		25水		25土		25土	【集中】渡辺
26火		26木	三桐② 清水谷①	26日	【集中】吉田	26火		26金		26月		26水		26土		26月		26木		26日		26日	【集中】渡辺
27水		27金		27月		27水		27土		27火		27木	三桐② 清水谷①	27日		27火		27金		27月		27月	
28木	三桐② 清水谷①	28土		28火		28木	三桐② 清水谷①	28日		28水		28金		28月		28水		28土		28火		28火	
29金		29日		29水		29金		29月		29木		29土	藤島②	29火		29木		29日				29水	
30土		30月		30木	三桐②	30土		30火		30金		30日		30水		30金		30月				30木	
		31火				31日		31水				31月				31土		31火				31金	

講義時間 ①10:20～11:50　②13:30～15:00　③15:30～17:00

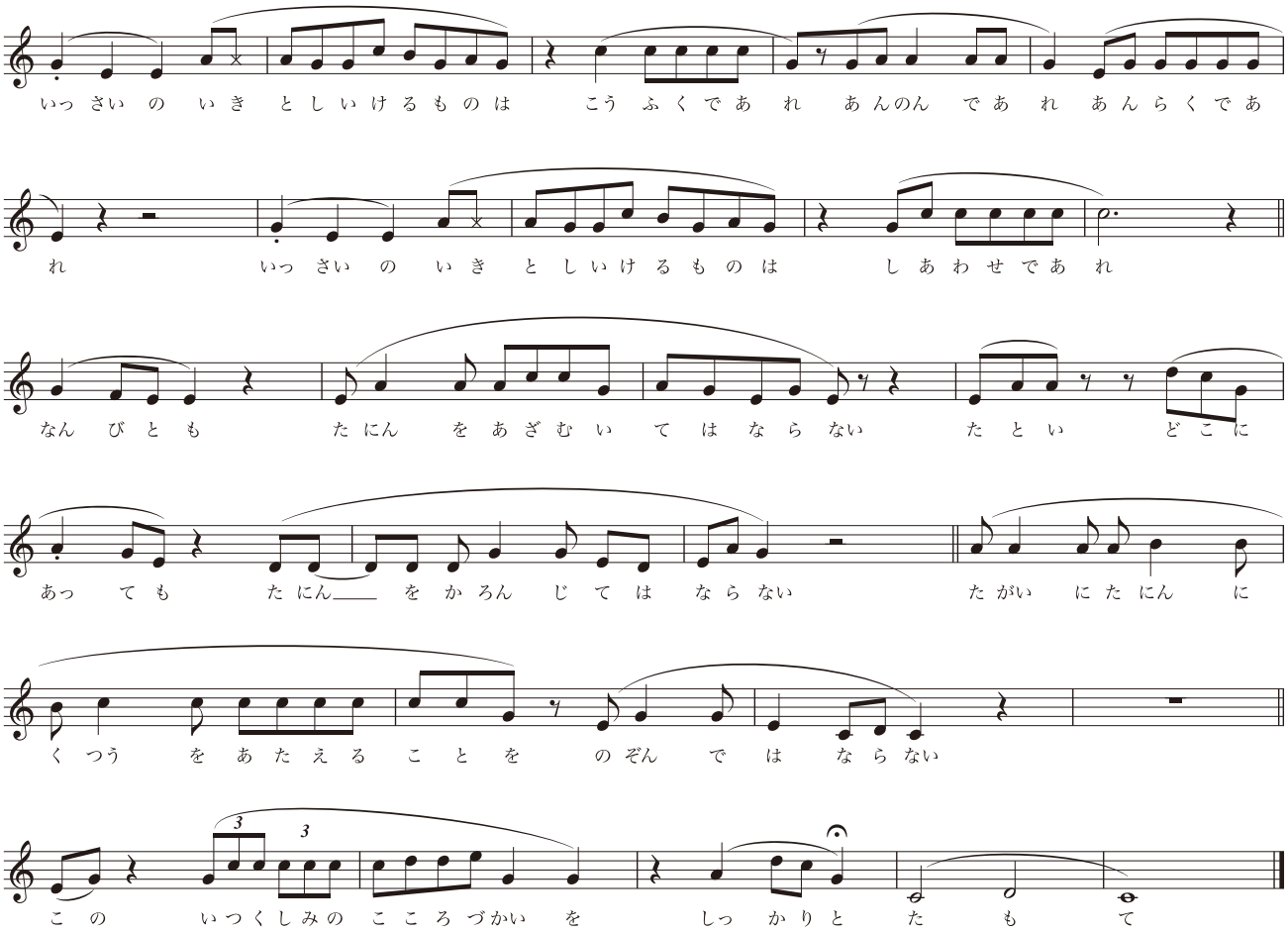
慈しみ

東方学院歌

詞　中村　元
作曲　中村匡宏

慈しみ

一切の生きとし生けるものは、
　幸福であれ、安穏であれ、安楽であれ。
一切の生きとし生けるものは、幸せであれ。
何びとも他人を欺いてはならない。
たといどこにあっても
　他人を軽んじてはならない。
互いに他人に苦痛を与える
　ことを望んではならない。
この慈しみの心づかいを
　しっかりとたもて。



© 2013 Kunihiro NAKAMURA.

●中村元記念館ボランティアサポーター募集

中村元記念館では、当館の事業にご協力いただける「ボランティアサポーター」を募集中です。ご都合のいい時間に、ご自分の持ち味や興味を活かしてボランティアしてみませんか。

詳しくは中村元記念館までお気軽にお問い合わせください。

〈活動内容の例〉

・蔵書整理
・イベント運営
・付属研修施設の環境整備
・チラシ等発送業務
・語学（翻訳/通訳）

●中村元記念館東洋思想文化研究所研究員募集

中村元記念館東洋思想文化研究所の研究員を募集いたします。当研究所は、中村元記念館に所蔵されている中村元博士の約34,000冊の蔵書・資料を活用して、博士が開拓された学問の道をさらに深く探究し、山陰地域の学術・文化の振興に寄与することを目的とします。

〈活動内容〉

・隔年発行予定の当館の研究紀要に研究発表をする。
・可能であれば、関連する学会で発表をする。
・山陰における人文科学分野の研究を振興する。

〈応募資格〉

・人文科学分野の修士号を有する方、または修士号と同等の資格（研究業績等）を有する方。
・中村元記念館東洋思想文化研究所の理念に賛同し、中村元記念館を支え、発展させていく熱意のある方。

〈応募方法〉

以下の書類を中村元記念館まで郵送してください。採用に当たっては所長による面接を行います。

・履歴書（功績書またはそれに準じるものを添付する）
・研究課題書

〈応募締切〉

2016年３月31日(木) 必着

〈待遇〉

・当館所蔵の図書・資料を管理者の同意のもとご活用いただけます。
・研究助成金等は当分の間支給いたしません。
・研究員に対して会費等の徴収をすることはありません。

中村元記念館東洋思想文化研究所

所　長	前　田　専　學
副所長	釈　　悟　震
主　事	清水谷　善　曉
主事補	笠　原　愛　古

Nakamura Hajime Memorial Hall

中村元 記念館 友の会 入会のご案内

中村元記念館では、東洋思想の巨星 中村 元（なかむら はじめ）博士の偉業を伝え、
34,000冊を超える博士の蔵書の調査・整理、収蔵品の管理、東方学院松江校運営など、
幅広い活動を行っております。当館の活動をご理解、ご支援いただき、
また、会員同士の親睦を図る友の会に入会いただきますようご案内いたします。

年会費 年間２千円（毎年3月末日が有効期限となります）

会員特典
- **「中村元記念館友の会」会員証を発行します。**
- **中村元記念館の「中村元記念館通信」をお送りします。**
- **東方学院松江校入会金、継続事務費10%OFFにします。**
- **記念館で販売する書籍・グッズの割引をします。**
- **提携施設の入場料が割引料金になります。**
- **友の会限定交流会のご案内をいたします。**

入会のお申込み方法 次ページの払込取扱票（入会申込書）に、住所、氏名、電話番号、金額をご記入の上、点線に沿って切り取り、お近くの郵便局にお払込みください。（年会費：2,000円）
会費ご入金日より会員となります。会員継続は自動更新となります。
退会を希望される際は事務局までご連絡ください。

◆ 中村元記念館友の会 規約

（名称）第1条 この会員制度は、中村元記念館友の会（以下「友の会」）という。**（事務局）第2条** 友の会事務局は、中村元記念館に置く。**（目的）第3条** 友の会は、館の活動を支援して、会員相互の親睦を図ることを目的とする。**（会員）第4条** 会員とは、前条の目的に賛同し、この規約を承諾のうえ会費を納入するものをいう。2.会員には会員証を発行する。3.会員資格は、4月1日から翌年3月31日までとし、会員より退会の申し出がない限り自動的に更新する。**（年会費）第5条** 会費は、年間２千円とし、次のいずれかの方法により納入する。（1）事務局に直接持参（2）指定口座に振込**（会員の特典）第6条** 友の会会員は、次の特典を受けることが出来る。（1）「中村元記念館友の会」会員証を発行します。（2）中村元記念館の「中村元記念館通信」をお送りします。（3）東方学院松江校入会金、継続事務費10%OFFにします。（4）記念館で販売する書籍・グッズの割引をします。（5）提携施設の入場料が割引料金になります。（6）友の会限定交流会のご案内をいたします。**（会員証の紛失、盗難）第7条** 会員は、会員証の紛失や盗難にあった場合、ただちに事務局に届け出て、会員証の再発行を受ける。2.会員証が名義人以外に利用され、会員または友の会に損害を生じさせた場合は、名義人がその損害の責を負う。**（届出事項の変更等）第8条** 会員は、氏名、住所等に変更が生じた場合には、すみやかに事務局に届け出る。**（退会届）第9条** 会員は、退会する場合はその旨を事務局に申し出る。**（規約の変更）第10条** 友の会は、必要があるときは、この規約を変更することができるものとし、変更する場合は、会員に通知する。（附則）この規約は平成27年4月1日から適用する。

アクセス

飛行機でお越しの方

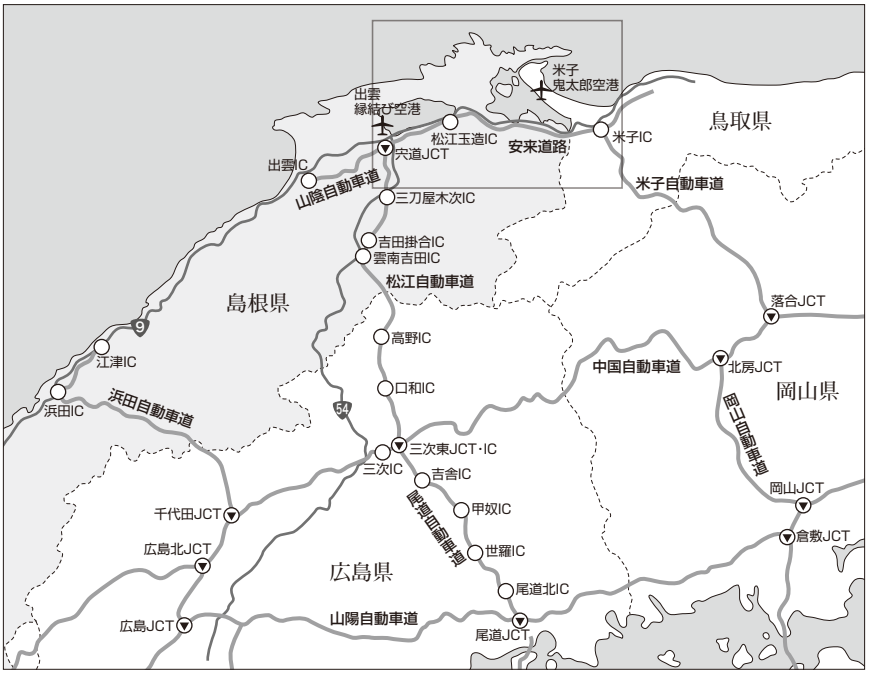
【米子空港から】車で約15分
【出雲空港から】車で約50分

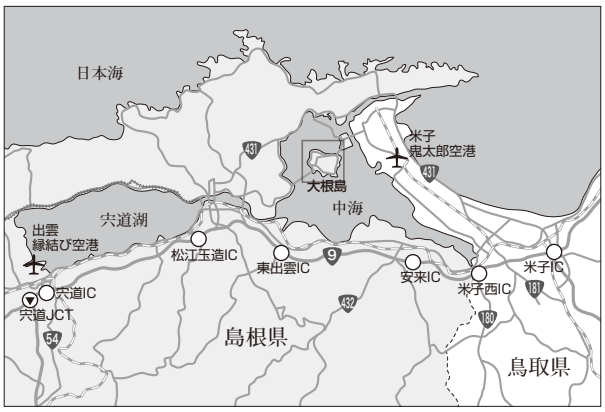
車でお越しの方

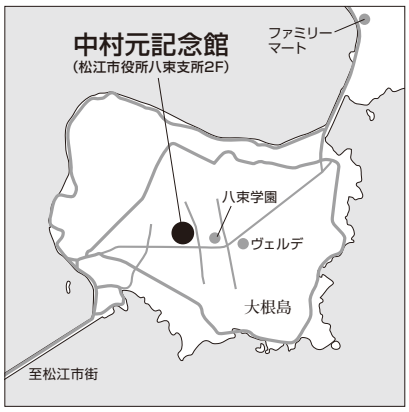
【広 島 か ら】車で3時間（中国自動車道三次I.C.経由）
【岡 山 か ら】車で2時間15分（岡山自動車道・中国自動車道・米子自動車道）
【松江駅から】車で約25分
【境港駅から】車で約10分
【米子駅から】車で約35分

バスでお越しの方

【松江駅から】
・松江市営バス「八束町」行で約50分、「八束支所前」下車
・松江境港シャトルバス約25分「由志園」下車のち徒歩約10分
【境港駅から】
・八束コミュニティバス約20分「八束中央」下車のち徒歩約3分
・松江境港シャトルバス約15分、「由志園」下車のち徒歩約10分







Nakamura Hajime
Memorial Hall
नाकामुरा हाजीमे स्मारक सभागृह

2016年1月29日　発行

発行所　特定非営利活動法人中村元記念館東洋思想文化研究所
〒690-1404　島根県松江市八束町波入2060番地　松江市八束支所2F
TEL 0852-76-9593/FAX 0852-76-9693
info@nakamura-hajime-memorialhall.or.jp
http://www.nakamura-hajime-memorialhall.or.jp/